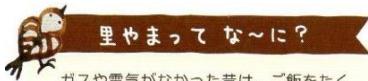


まつどの森 北部マップ 新松戸・八柱・常盤平エリア



ガスや電気がなかった昔は、ご飯をたくのもお風呂をわかすのもマキを使いました。家を建てるのも道具を作るのも、森の木や竹をつかいました。森の落ち葉は田んぼや畑の肥料になりました。

そんなふうにひとびとの生活にかかせない身近で大切な森は「里山」とよばれています。松戸にもひと昔前までは里山がたくさんあったのでしょうか。今はほとんど住宅や道路などになっています。私たちボランティアは、残り少ない小さな里山のなごりの森を「里山やま」と呼んで、いつくしんでいます。

まつどの森 南部マップ 秋山・東松戸・松飛台エリア



Column

里やまボランティアの取り組み

最初はヒマだから「里やま護座」を受けて。仲間がでて森の活動をはじめた。それまで、森を整備するなんて、思ってもいなかつた。

春は新緑、夏は木立の涼風、秋は美しい散る落葉、冬は木もれ陽の中に小鳥のさえずり。身近な自然の中で心地よい汗をかける。時には枯木を伐採。ドーンと大地のドラムが響き、一夏に明るい鳴さしが財しこむ。家に帰ってビールがうまい。

イベントの日には、子どもたちの歎声がこだまする虫を発つた自分が輝いている。心が若返る。木や竹で工作、フキノトウやタケノコ、きのこ、山クリなども楽しむ。

この素晴らしいみどりを、いつまでも残したい。

(N)